

ハマウツボ

Orobanche coeruleascens Stephan ex Willd.

岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

被子植物門 双子葉類 合弁花群

ハマウツボ科

選定理由

ダムの建設などによって、不安定な河川敷が減少し、生育地が少なくなっているため。

存続を脅かす要因

河川開発、海岸開発

分布状況

北海道、本州、四国、九州に分布する。岡山県内では河川敷や海岸のカワラヨモギに寄生しているのが見られる。

生育情報

カワラヨモギなどに寄生する一年草。茎は花穂とともに10～35cm、鱗片葉とともにはじめ長い白軟毛がある。鱗片葉は互生し、黄褐色、狭卵形または皮針形で長さ1～1.5cm。茎の上部に淡紫色の花を密につける。花冠は長さ2cm。萼は長さ1cm、各片は2裂する。さく果は狭だ円形で長さ1cm、種子は黒色で網目模様がある。花期は5～8月。

特記事項

「自然公園法」による瀬戸内海・大山隠岐国立公園の指定植物である。

文献番号 14, 78, 79, 116, 121

(榎本敬)



撮影：榎本敬



キヨスミウツボ

Phacellanthus tubiflorus Siebold et Zucc.

岡山県：絶滅危惧Ⅱ類

環境省：該当なし

被子植物門 双子葉類 合弁花群

ハマウツボ科

選定理由

産地がきわめて限られているため。

存続を脅かす要因

産地局限

分布状況

岡山県中部、北部にあり、二次林林下に生える。集団数、個体数ともごくわずかであるが、現状が維持される限りはすぐに絶滅の恐れはない。北海道、本州、四国、九州に分布し、山地の木陰に生え、カシ類やアジサイ類などの根に寄生する。

生育情報

高さ5～10cmになる寄生植物。全体に毛がなく、白色でのちに黄色を帯びる。茎はやや太く、密に鱗片葉におおわれる。鱗片葉は直立してつき、卵形、長さ4～8mm。花は6～7月、やや頭状に集まって短い花穂をつくり、白色のちに黄色、斜上または斜めに直立する。花冠は長い筒状で、長さ2.5～3cm、2唇形となって下唇は3裂する。果実はだ円状卵形で、長さ約1cm、多数の種子を入れる。

特記事項

「自然公園法」による瀬戸内海・大山隠岐国立公園ならびに氷ノ山後山那岐山国定公園の指定植物である。

文献番号 121

(榎本敬)



撮影：榎本敬

